Nagoya City University West Medical Center

Information

外来診療のご案内

■診療受付時間… 月～金曜日 初診・再診
8：45～11：30

■休診日…… 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12／29～1／3）

※掲載の写真には一部イメージを使用しております。

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター

〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町1-1-1

TEL.052-991-8121
FAX.052-916-2038

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 検索

HPはこちらから

名古屋市立大学
NAGOYA CITY UNIVERSITY

名古屋市立大学医学部附属
西部医療センター

Nagoya City University West Medical Center

病院案内 Information

理　念

**地域に根差した大学病院として
高度かつ安心な医療を提供するとともに
優れた医療人を育成します。**

基本方針

1. 公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
2. がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
3. 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
4. 充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
5. 医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

患者さんの権利に関する宣言

患者さんの権利

1. 平等で良質な医療を受ける権利
2. 十分な説明を受ける権利
3. 自らの意思で治療方針を決定できる権利
4. 個人の尊厳やプライバシーが守られる権利
5. セカンドオピニオンを求める権利

患者さんの責務とお願い

1. ご自身の健康状態について、正確な情報をお伝えください
2. 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください
3. 暴言・暴力等、他の方の迷惑となるような行為は厳に慎んでください
4. 医療費の自己負担分は必ずお支払いください
5. 医療スタッフ育成のための研修病院として教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします

Nagoya City University West Medical Center

病院概要

光庭

施設概要

施設名称	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
開設者	名古屋市立大学
所在地	〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1 TEL(052)991-8121　FAX(052)916-2038
主な指定・認定施設	地域医療支援病院(県承認)　地域がん診療連携拠点病院(国指定) 災害拠点病院(地域災害医療センター)(県指定)　地域周産期母子医療センター(県指定) 救急告示医療機関(県指定)　臨床研修指定病院(基幹型)(国指定) 病院機能評価3rdG:Ver.2.0(日本医療機能評価機構認定) がんゲノム医療連携病院(国指定)
病床数	500床
標榜診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓・透析内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、児童精神科、リウマチ科、小児科、小児アレルギー科、小児科(新生児)、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科
駐車場	345台(立体駐車場)
敷地面積	47,535.77㎡(クオリティライフ21城北敷地全体)、27,652.24㎡(病院分)
建築面積	10,248.00㎡
延床面積	42,590.53㎡
構造	鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)、免震構造
建物構成	地下1階、地上8階、塔屋2階、緊急離着陸場
付帯施設	24時間保育所、ワンルームマンション(別敷地)

当院では、環境配慮の観点から、省資源や自然エネルギーの有効利用に努めます。
自然光を積極的に取り入れたり、雨水をトイレの洗浄水や植栽への散水に利用したりします。雨水は、高機能の浄水装置を用いて震災時等に飲料水としても利用できます。

沿　革

名古屋市立西部医療センター城北病院

年　月	項　目
昭和16年　7月	北区田幡町(現在の城見通3丁目)に産婦人科、小児科、病床数30床として開設
昭和20年　5月	戦火により焼失、2か月後に西区志摩町1丁目、葵記念会館において診療
昭和23年　9月	焼失場所木造瓦葺2階建(内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科を増設)で診療開始
昭和34年　1月	病床数156床に増床
昭和45年　3月	北区金田町に新築移転し、病床数220床となる 総合病院名称承認
昭和56年 12月	診療棟西館(未熟児病棟、西3階病棟)増築
昭和58年　6月	本館改築し、病床数251床に増床
平成10年　7月	地域周産期母子医療センター認定
平成14年　6月	小児科二次救急開始
平成20年　4月	名古屋市立西部医療センター城北病院と改称
平成20年　8月	「赤ちゃんにやさしい病院」認定
平成23年 4月30日	北区平手町に移転のため閉院

名古屋市立西部医療センター城西病院

年　月	項　目
昭和11年　8月	旧名古屋市民病院、現在の名古屋市立大学病院の分院として中村区北畑町に病床数35床にて開設
昭和17年　9月	病床数を74床に増床
昭和18年　4月	旧名古屋市立城西病院と改称して独立
昭和32年　3月	西病棟を増築し、病床数169床に増床
昭和36年　7月	本館診療棟を改築
昭和42年 12月	東病棟、診療棟、管理棟を増築し、病床数259床に増床
昭和56年　3月	管理診療棟、理学診療棟を増築
昭和61年　3月	北病棟を増築し、病床数305床に増床
昭和62年　3月	東病棟、西病棟を改修し、南病棟とする
平成20年　4月	名古屋市立西部医療センター城西病院と改称
平成23年 3月31日	閉院

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

年　月	項　目
平成23年 5月1日	北区平手町にて、 旧名古屋市立西部医療センターとして開設(500床)
平成24年　1月	6階西病棟をオープン(450床稼働)
平成24年　3月	災害拠点病院(地域)の指定
平成24年　4月	7階東病棟をオープン(500床稼働) 基幹型臨床研修病院の指定
平成25年　1月	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6に認定
平成25年　2月	名古屋陽子線治療センターにて陽子線治療開始
平成25年　9月	地域医療支援病院の承認
平成27年　4月	愛知県がん診療拠点病院の指定
平成28年　9月	標榜診療科目に「形成外科」を追加
平成30年　6月	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価3rdG:Ver1.1に認定
平成31年　4月	地域がん診療拠点病院の指定
令和2年　1月	がんゲノム医療連携病院の指定
令和3年　4月	名古屋市立大学医学部附属西部医療センターと改称
令和5年　3月	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価3rdG:Ver2.0に認定
令和5年　6月	ゲノム医療センター開設
令和5年　8月	紹介受診重点医療機関として公表 赤ちゃんにやさしいNICUに認定
令和5年　9月	生殖医療センター開設
令和6年　2月	特定地域医療提供機関(B水準)、 連携型特定地域医療提供機関(連携B水準)の指定
令和6年　3月	外来化学療法室を19床に増床
令和6年　4月	感染症指定医療機関(第一種協定指定医療機関、第二種協定指定医療機関)の指定 乾癬治療ケアセンター開設

クオリティライフ21城北

診療機能のご紹介

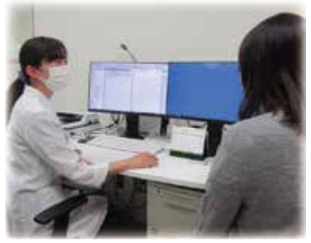
小児・周産期医療

地域周産期母子医療センターとして、NICUやGCUを備え、安全なお産を一丸となってサポートしています。

■周産期医療センター

母体や分娩の異常、胎児・新生児の異常に対して、産科・小児科・小児外科など関連診療各科の医師・スタッフが緊密な連携をとり、高度専門医療・救急医療を提供します。

外来



妊婦健診

助産師外来

母親教室

より快適な妊娠生活、自然なお産、育児に向け医師や助産師が相談や指導を行います。

入院

母体・胎児診療部門

産科病棟

ハイリスク出産を24時間体制で受け入れています。また、フリースタイル出産、家族立ち会い出産、母乳育児支援を行い、家族を含め安心で満足できる出産、育児になるようお手伝いします。

MFICU
（母体・胎児集中治療室）

LDR
（陣痛・分娩・回復室）

家族立ち会い出産

母児同室 母乳育児

新生児診療部門

最先端の医療機器とチーム医療で小さな生命を守っています。

NICU（新生児集中治療室）

カンガルーケア

祖父母面会

退院後のフォロー

安心して育児が行えるように、2週間健診・1ヶ月健診・母乳外来などで継続した支援を提供します。

2週間健診・1ヶ月健診

母乳外来

退院後も継続して赤ちゃんの成長を見守ります。双子のご両親への地域支援としてさくらんぼの会をサポートしています。

フォローアップ外来

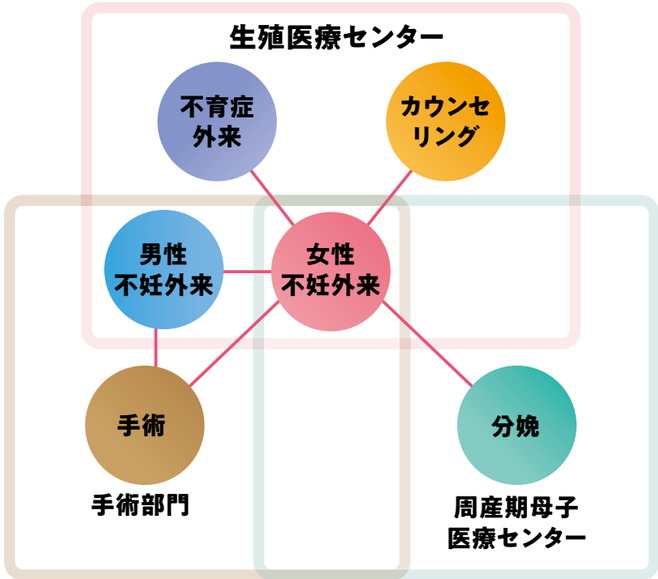
さくらんぼの会

■小児医療センター

病棟はオレンジを基調とした内装で、「愛」をテーマに、こころ充たされながら入院生活がおくれるよう環境を整備しました。個室を多く配置し、感染対策にも配慮しています。

■生殖医療センター

西部医療センターでの不妊治療の特徴は、体外受精、顕微授精といった治療はもちろん、男性不妊症や不育症といった幅広い不妊治療に対応できることです。不妊治療中に入院処置や手術が必要な時も同じ施設内で対応できるほか、妊娠が成立した場合、ご希望の方は地域の周産期母子医療センターでもある西部医療センターの産婦人科で、出産まで継続して受診していただけます。
また、不妊治療を受ける方の中には、落ち込んだり、不安や孤独を感じたりと、心が乱される方もいらっしゃいます。そこで、生殖心理カウンセラーの資格を持つ公認心理師を配置し、不妊治療を精神面でもサポートします。



（図）生殖医療センターと他部門との連携

■不育症

流産あるいは死産が2回以上ある状態を不育症（生児獲得歴の有無は問わず、流産または死産が連続していなくてもよい）といい、3回以上連続する流産を習慣流産といいます。
流産は妊娠の約10-15%に発症し、不育症は約5%、習慣流産は約1%に認められます。
不育症の原因はさまざまです。女性側だけに原因があるわけではありません。また、原因不明の場合も多いのです。「不育症かもしれない」と思ったら、ご相談ください。
まず不育症検査を系統的に行い、その原因に応じた治療を行いましょう。

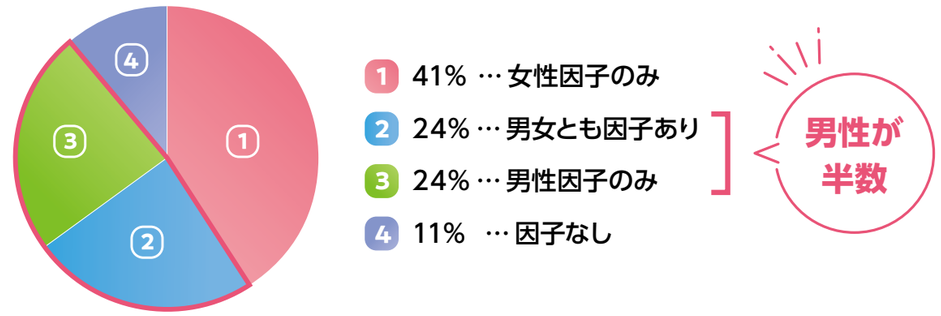
■女性不妊

不妊症の検査、タイミング指導、人工授精、体外受精/顕微授精などの生殖補助医療まで、保険診療を中心に行います。
総合病院である強みを生かして、男性不妊症や不育症、合併症のある方への他科との連携、子宮筋腫や子宮内膜ポリープなど不妊治療に伴って必要な手術も、西部医療センターの婦人科において一貫して行うことができます。

■男性不妊

夫婦生活ができている、勃起・射精ができているから大丈夫。というわけではありません。不妊の原因のおよそ半分が男性にあります。
このため不妊治療の際、精液検査は必須の検査です。不妊治療の初めは必ず夫婦で検査を開始することが一番大切です。不妊に悩むカップルは男性も一緒に受診していただき、パートナーとともに治療に取り組んでいきましょう。

（図1）不妊症の原因



（図2）男性不妊症の原因

■生殖心理カウンセリング

不妊症治療、不育症治療に取り組むカップルは、診断から治療、出産に至るまで多くのストレスを抱えています。
不妊症治療では女性は身体的負担や生活の変化により不妊に特有のストレスを感じやすいといわれています。また、男性は治療に対する無力感や抵抗感があったり、治療をサポートする立場として辛さを抱え込みやすいといわれています。さらに、不妊症治療や不育症治療はカップルの関係やその他の対人関係を変化させたり、人生や生き方を考えるきっかけとなることもあります。
生殖医療センターでは、お子さまを望むカップルのこころのケアを大切に考え、不妊症・不育症治療の専門知識を持つ生殖心理カウンセラー・公認心理師によるカウンセリングを提供しています。生殖に関わる悩みや不安は、話して相談することが大切です。辛いお気持ちを抱え込まず、ぜひ私たちにご相談ください。

がん医療の充実

地域がん診療連携拠点病院として、多職種によるチーム医療を推進し、手術や放射線治療・薬物療法による高度ながん医療を提供します。

■消化器腫瘍センター・呼吸器腫瘍センター

食道がん・胃がん・大腸がんなどの消化器系及び肺がんなどの呼吸器系のがんをチームで治療します。多職種が連携したキャンサーボード（症例検討）を開催し、一人ひとりの患者さんに最適な治療を選択します。

■内視鏡部

がんの早期発見、正確な診断と治療をめざし、最新の内視鏡機器を揃えました。

主な内視鏡機器

- 経鼻内視鏡
- カプセル内視鏡
- 拡大内視鏡
- ダブルバルーン小腸内視鏡
- 各種超音波内視鏡 など

経鼻内視鏡

カプセル内視鏡

■外来化学療法室

外来で快適に抗がん剤治療を受けていただくために、リクライニングチェア、ベッドを揃えました。テレビを設置し環境を整え、プライバシーにも配慮しました。

■中央手術部

温かく柔らかな印象が持てるよう、全室をピンクを基調とした内装で統一しました。最新の人工呼吸器やハイビジョンカメラ、内視鏡手術機器を完備しています。

■がん相談支援センター

がんに関する医療情報の提供、様々な疑問や悩みの相談を受け付けております。
お話をお聴きしながら相談者の立場に立って一緒に考え、よりよい方法を見つけるお手伝いをします。

■女性腫瘍センター

婦人科で扱う子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどを中心とした女性特有の良性・悪性腫瘍の治療管理を行います。中央手術部、外来化学療法室、放射線診断科、放射線治療科さらにゲノム医療センターとも連携し適切な手術、薬物療法、放射線治療を行います。乳がん治療センターとも協力し、遺伝性乳がん卵巣がん症例には、リスク低減乳房切除術やリスク低減卵管卵巣摘出術の調整や手術を実施しています。
また将来の医療への応用が期待できるような新たな知見の探求のため、他施設共同の臨床研究にも参加しています。

■乳がん治療センター

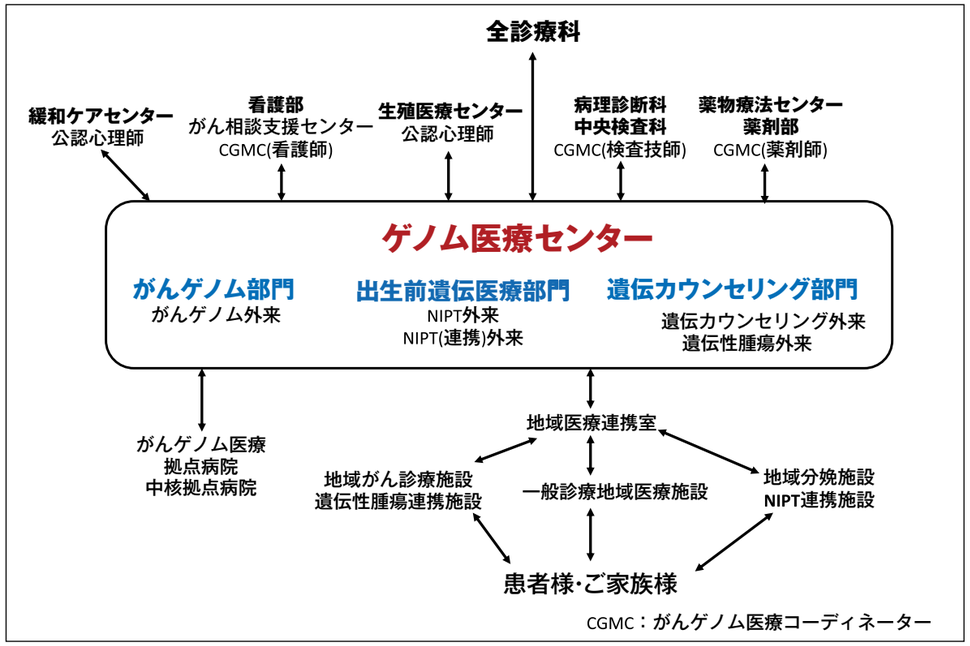
乳がん治療センターは、乳がんの一連の治療を円滑に行うため、乳腺・内分泌外科、形成外科、それぞれで関連する各センター、各診療科の協力のもと設立されました。

乳がん手術における乳房再建手術、また乳がんを発症した遺伝性乳がん卵巣がん症候群の患者様には、当院ゲノム医療センターの指導のもと、当センターにてリスク低減乳房切除術（乳房再建も含む）を、女性腫瘍センターにてリスク低減卵巣卵管切除を行うことができる体制を整えております。

マンモトーム

■ゲノム医療センター

ゲノム医療センターは、すべての診療領域に共通する、ゲノム医療と遺伝医療を横断的に統括するセンターです。ゲノム医療センターでは、①がんゲノム外来、②NIPT（母体血胎児染色体検査）外来、③遺伝カウンセリング外来、④遺伝性腫瘍外来を設置しており、院内の各診療科・各部門や、院外の関連施設と密接に連携して、ゲノム医療・遺伝医療を実践しています。

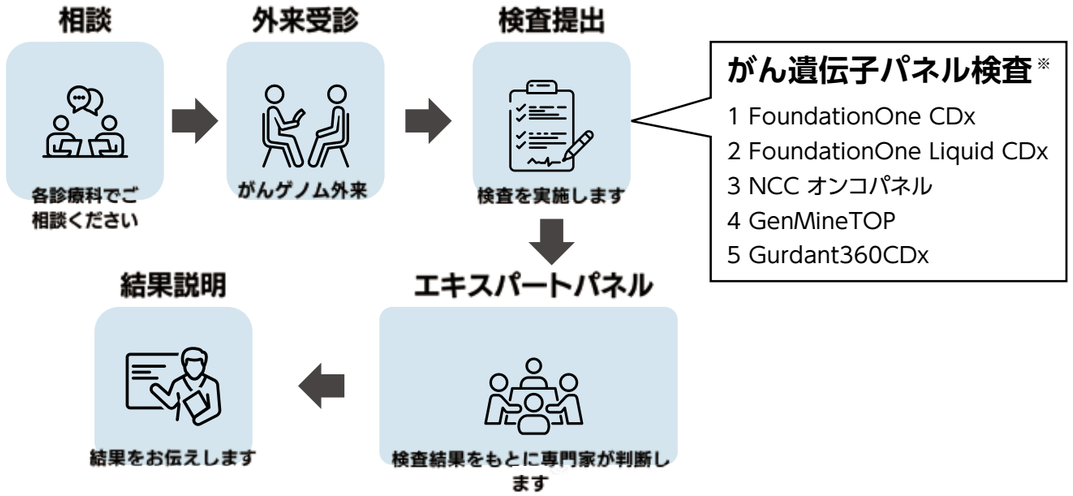


■NIPT（母体血胎児染色体検査）外来・NIPT（連携）外来

NIPT外来では、当院の産婦人科、小児科、関連部門と密に連携を取り、NIPTを実施しています。
またNIPT（連携）外来では、当院の連携施設である、名古屋バースクリニック様（名古屋市名東区）、かすがいマタニティクリニック様（春日井市）と密に連携を取り、NIPTを実施しています。

■がんゲノム外来

がんゲノム外来では、がん遺伝子パネル検査※（がんゲノムプロファイリング検査）を実施しています。当院は「エキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携施設」として、院内エキスパートパネルを実施しており、検査実施から結果開示までの時間を大幅に短縮し、より迅速な治療提案に努めます。



■遺伝カウンセリング外来

遺伝カウンセリングとは、遺伝の可能性のある疾患の患者さまやそのご家族、あるいは、遺伝についての漠然とした不安や悩みを抱えている方々のための医療です。遺伝カウンセリング外来では、遺伝に関する様々なご相談に対応させていただいています。また、必要に応じて適切な遺伝学的検査を提案し、その結果を詳しく説明いたします。他の医療機関で実施された遺伝学的検査結果に基づく、遺伝カウンセリングのご依頼にも対応いたします。生殖・周産期領域、小児領域、成人領域、腫瘍領域など、全ての診療領域の遺伝カウンセリングに対応し、患者様やそのご家族の遺伝に関する様々なご不安やお悩みの問題の解決を、サポートいたします。

■遺伝性腫瘍外来

遺伝性腫瘍外来では、がん遺伝子パネル検査や各種遺伝性腫瘍遺伝学的検査の結果、遺伝性の変化があることが判明した場合、あるいは、遺伝性の可能性がある変化が判明した場合、その病的な変化によってがんの発症リスクが高まることについて理解を深め、その方の健康管理、医学的管理や、ご家族に結果をお伝えするかどうかなどを含めた、今後の対策・方針に関する提案を行います。VUS（病的意義が不明な変化）や遺伝子多型が判明した場合にも、その意義や対応についての詳しい説明をいたします。
また、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）、Lynch症候群などの各種遺伝性腫瘍症候群が判明した方々に対して、関連腫瘍のリスク評価やサーベイランス計画について、その方やご家族のご事情やご要望に合わせてサポートいたします。

がん医療の充実

■陽子線治療センター

陽子線治療は体への負担が少なく、通院治療も可能なクオリティオブライフ(QOL:生活の質)に優れた治療です。

ホテルのラウンジのように落ち着いた空間の待合室です。

放射線の一種である陽子線は、ある深さにおいて、放射線量がピークになる特性を持っており、病巣の後ろで止まります。このピークの深さを病巣に合わせることで、放射線量を病巣に集中することができ、正常組織への影響を低く抑えることができます。

■固定照射室

固定照射室は、水平方向から陽子線を照射可能な照射室で、主に前立腺がんの治療が行われます。

■ガントリー照射室

ガントリーを360度回転させ、どの方向からでも陽子線を照射することができます。陽子線を当てたくない部分を避けて、身体の前や横、後ろなど自由な角度から陽子線を照射することができます。

■入射器(イオン源、ライナック)

入射器では「イオン源」と「ライナック」という2つの装置を利用し、陽子線を発生させて加速します。陽子線の材料には水素ガスを利用し、電気の力で陽子を生成、加速を行います。

■加速器(シンクロトロン)

直径約7m、1周約23mのリング状の装置で、ライナックで加速した陽子線を取り込み、最大で光速の60%まで加速します。シンクロトロンは、陽子を輸送する真空パイプや、陽子の軌道を曲げるための電磁石、加速を行う高周波加速空洞などの様々な装置で構成されており、それぞれの装置を正確にコントロールすることで、陽子を加速します。この際、加速空洞や、電磁石は陽子の加速に同期してコントロールされます。

■ガントリー

陽子線を曲げる部品等で構成される内径が約5m、重さ約200トンにも及ぶ巨大な装置です。この装置を回転させることで、腫瘍に合わせて360度どの方向からも陽子線を当てる事が可能になり、正常な組織を傷つけにくい方向を選択して治療を行うことができます。非常に高い精度で回転させることができ、直径2mmの球を狙い撃つことができます。

脊椎医療

高齢化社会となり脊椎疾患の抱える患者の数は増加傾向にあります。
的確に診断し、早期治療が必要です。

■脊椎センター・整形外科

脊椎疾患の治療の全般を行い、投薬や各種運動療法を含むリハビリ、神経ブロックなどの保存的治療から顕微鏡を使用した低侵襲手術、側弯や後弯の矯正等の手術を行っています。また「あゆみセンター」を脳神経内科、脳神経外科とともに立ち上げ、難治性の歩行障害を多職種で評価し治療にあたっています。運動器を扱う専門医として急性期の症状に対応し、また長期化しがちな椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対し、速やかに治療方針をたて早期の社会復帰が可能な医療の提供を目指しています。おおよそ年間400例の手術を行っています。

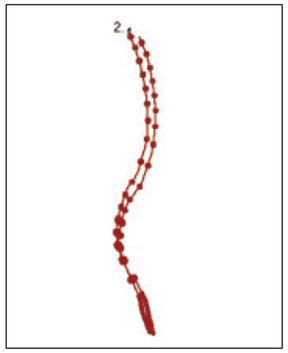
O-arm(術中イメージングシステム)

外　　来　通常、平日は午前中に初診、紹介の患者の診察を行います。保存的な治療を選択する場合も常に評価を行い、治療方針を決定します。ロコモや骨粗鬆症の精査も行います。

検査入院　入院し多職種による評価を行います。画像評価、理学所見を参考にカンファレンスにて治療方針を決定します。

手　　術　できるだけ低侵襲手術を目指しますが、必要に応じて矯正や脊椎固定術を行います。

後療法(リハビリ)　術後リハビリは必要です。当院では約2週間のリハビリを行い、必要であれば連携病院でのリハビリを継続します。



Spinal Mouseで計測した姿勢分析

術後経過　脊椎手術は術後経過観察が必要です。疾患により異なりますが、外来にてフォローします。

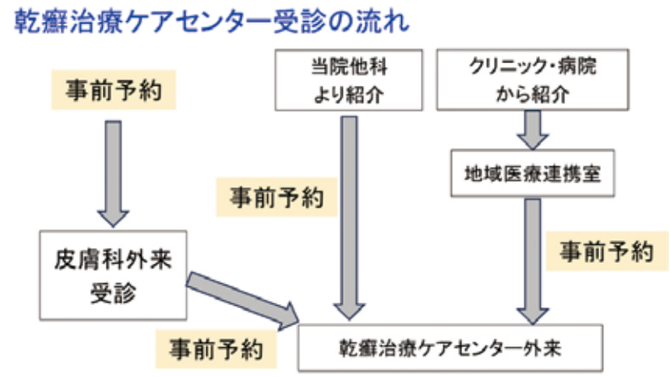
乾癬医療

■乾癬治療ケアセンター

乾癬は頭皮や肘、膝のこすれる部位にがさがさとしたかさぶたのようなものをつけた赤い斑状の皮膚症状をみとめる慢性の皮膚疾患です。本邦における罹病率は約0.3～0.4%、患者数は約40万～50万人とされる疾患です。欧米においては人口の2～3%と日本の10倍ほど多く、本邦でも患者数は増加しています。遺伝的な要因と環境要因から発症するとされていますが、手指や頸椎、腰椎、仙腸関節といった関節に炎症をもたらしたり(乾癬性関節炎)、心血管疾患(心筋梗塞や脳梗塞など)、糖尿病、脂質異常症、脂肪性肝疾患など多くの併存症を合併しやすいことも知られていることから、集学的医療が求められています。世界的にも乾癬センターの設置は増えてきている中で将来の併存症をなくすこと、治療の最適化を目標に2024年4月1日本センターを新設いたしました。

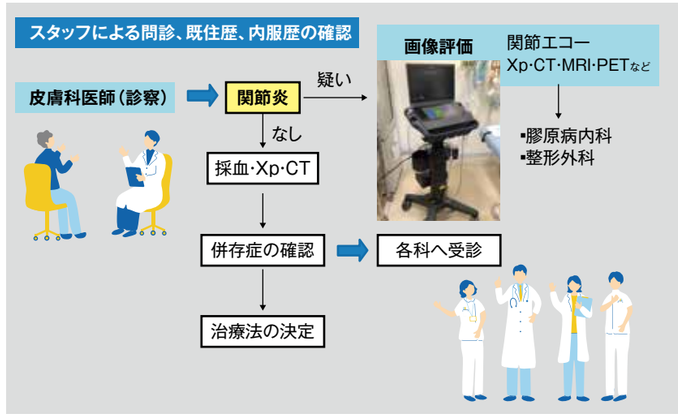
■受診の流れ

乾癬治療ケアセンターの受診については、初めに当院の皮膚科を受診いただくか、当院他科からの紹介を受けてください。またかかりつけの病院やクリニックからは、必ず当院地域医療連携室を通して予約をお願いいたします(右図参照)。



■診療の流れ

初めに問診、既住歴、内服歴の確認、身長、体重、血圧測定をさせていただき、その後皮膚科医師による診察します。関節炎の疑いがある場合は関節エコー等により画像評価を行い、膠原病内科・整形外科へ受診していただきます。
関節炎の疑いがない場合は採血等による併存症の確認を行い、該当科もしくはかかりつけクリニックへ受診していただきます。そのまま皮膚科受診となる場合は、治療法の決定を行います。



地域の安心を支える救急医療

地域の患者さん、かかりつけの患者さんの急な病気を受け入れる救急医療体制をとっています。成人はもちろん、地域周産期母子医療センターとして、産科と新生児科が連携した小児・周産期医療に対応しております。救急外来には小児専用のスペースがあり、壁にデザインが施され、ぬくもりのある診療スペースとなっています。当院の救急車は他の産科病院で生まれた未熟な赤ちゃんを専用保育器を使い当院に搬送する目的でも使用されております。カンガルーが、おなかの袋の中で赤ちゃんを温かく育てるように、生まれたばかりの赤ちゃんを大切に運ぶイメージを救急車にデザインしました。

ラッピング救急車

小児科診察室

救急処置室

■地域災害拠点病院

地域災害拠点病院として、医療を継続し、日本全国から集結する支援DMAT等と協力して、災害時に多発する傷病者に対して救命救急医療を提供します。名古屋市や愛知県の災害対策本部と連携して、被災傷病者の広域搬送を行い、遠隔被災地から重症傷病者を受け入れます。

■DMAT(Disaster Medical Assistance Team)

災害医療を行うための専門的な訓練を受けたチーム(DMAT)を有し、大地震及び航空機・列車事故等の大規模災害時に被災地に急行し、被災者の生命を守ります。

DMAT

■集中治療部

24時間体制で生体情報を監視し、患者さんの安全を守ります。

■重症・救急病棟

救急入院の患者さんと重症の患者さんを専門に受け入れる病棟です。人工透析室も配備し、血液浄化にも対応します。

人工透析室

チーム医療の推進 ～スタッフが一体となってチーム医療を提供する病院～

多職種がコンセンサスをはかり、専門的な知識と技術を生かすことによって、患者さん個々に応じた最適な医療を目指します。

<栄養サポート>
患者さん個々の栄養管理を計画・実行し、病気の回復、合併症予防、QOL(生活の質)向上に取り組みます。

<褥瘡対策>
褥瘡は疾患であるという認識のもと、多職種協働で予防と治癒促進に取り組みます。

<キャンサーボード(症例検討)>
がんの手術・放射線治療および化学療法に携わる医師、その他専門を異にする医師や関連する職種が、患者さんの症状や状態、治療方針を定期的に検討します。

<緩和ケア>
生命を脅かす病気に直面する患者さんと家族のQOL(生活の質)を改善するため、患者さんや家族を含むチームで、苦痛の予防と軽減に取り組みます。

<認知症対策>
身体機能の低下、認知症の進行、せん妄の発症予防のため、身体疾患の治療を確実に進め、適切な医療や看護を提供できるよう、サポートチームで取り組みます。

<院内感染対策>
エビデンス(科学的根拠)に基づいた感染制御を目指し、チームで取り組みます。

<医療安全>
医療安全管理室を中心に危険情報を共有し、職種や立場の壁を越えた活動を行います。

■リハビリテーション科

より自立した質の高い生活を送れるよう、発症(受傷)後早期から関係職種が連携して総合的リハビリテーションを行います。

■中央検査科

検査は病気の早期発見、予防、診断、治療になくてはならないものです。正確で迅速な結果報告に努めます。

超音波検査

血液検査

生化学・免疫検査

地域に根ざした医療

地域社会に貢献する病院として、他の医療機関と連携したシームレスな医療の提供に努めます。
災害時には、ライフラインの機能維持を図り、災害拠点病院としての役割を果たします。

■地域医療連携センター

地域の医療機関からの患者さんのご紹介や諸検査の予約の受付、地域医療機関や在宅医療・介護支援機関等との連携を行っています。

■患者サポートセンター

療養中及び療養後の生活、介護・医療・福祉制度などに関する心配ごとや不安について医療ソーシャルワーカーや看護師が相談を受けています。

■災害対策

免震構造、井戸水活用、自家発電装置などにより病院機能を継続させます。屋上のヘリポートより、患者さんを広域搬送することができます。
毎年災害対応訓練を実施し備えています。

飲用井水プラント

ヘリポート

災害対応訓練

■医療情報提供コーナー

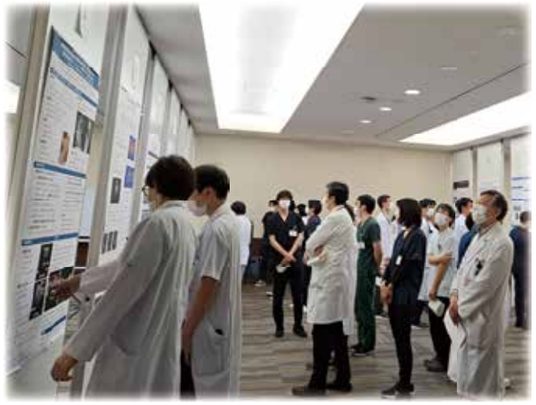
患者さんやご家族が、治療法の選択などに必要な病気の症状・治療法といった一般的な医療情報を、図書で調べていただくことができます。

Nagoya City University West Medical Center

人間味豊かな医療人の育成

医療に携わる職員としての資質の向上とともに、患者さんの気持ちに寄り添える人間味豊かな医療人を育成します。

臨床研修室



急性期型病院として初期および後期研修が可能です。当院には病院全体で研修医を育てようという雰囲気があり、また名古屋市立大学病院との「たすきがけプログラム」で、得意分野を学ぶ“エキスパート研修”も取り入れています。

看護部

看護部は「専門的な知識と技術により患者さんを尊重した暖かく質の高い看護を提供します」を理念として、医師や多職種、患者さんとご家族を含めた医療チームの一員として協働しています。安全で質の高い看護を提供するために7:1看護を実施するとともに、キャリア開発ラダーを導入し、スタッフのレベルに合わせた研修を企画運営しています。また、いつでも主体的にマイペースで学習できるようｅラーニング学習を導入しています。
専門看護師や認定看護師、特定行為研修等の専門性の高い人材育成のための派遣制度があり、スタッフスペシャリストとしてのキャリア開発の支援も行っています。

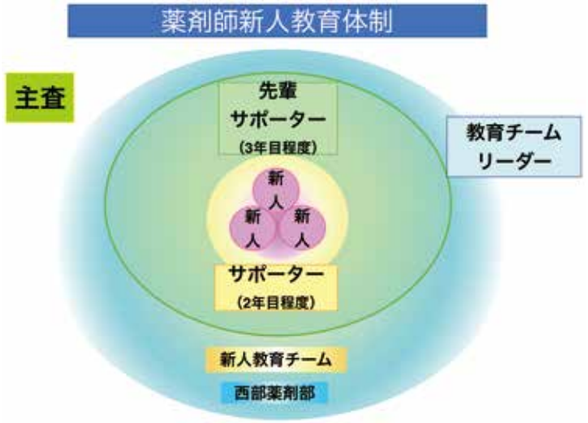
■看護部研修

中央放射線部

中央放射線部は、「高度な医療に対応できる『自律した放射線技師』の育成」を基本方針とし、人材育成に重点を置いています。安全かつ良質な医療を提供できるよう定期的に研修を実施し、職員一人ひとりが専門的な知識や技術の向上に努め、画像診断・放射線治療に貢献できる職員を育成しています。また、患者さんに寄り添う気持ちを持って業務を遂行するよう接遇にも力を入れて取り組んでいます。更に、専門技師等の資格を取得するために、外部の講習会や研修会に積極的に参加し、継続的に学ぶことにより、『自律した放射線技師』になるべく自己研鑽に努めています。

薬剤部

新人が、薬剤師としての心構えを学び、先輩薬剤師からきちんと業務指導を受けられるよう教育チームを結成し、教育方針・スケジュールを決定しています。また、薬剤師はOJTによる指導が多いため、指導を行った職員によって指導内容に違いがでないよう、チームで習得状況の確認を行います。教育の進捗や習得状況を把握するため、年次の近い職員が新人の日々のサポートを行い、先輩職員が指導状況を確認しています。これらのとりまとめを教育チームリーダーが行い、さらに主査が教育全体を管理しています。基本的な中央業務は10月までに習得し、その後病棟業務にも参加していきます。年度末には、病棟業務の中で経験した症例を発表する機会を設けて薬剤部全体でも新人の育成状況を共有しています。



リハビリテーション科

リハビリテーション科では患者様に対して効果のある治療を提供するために、各種資格取得や研究活動に力を入れています。また多くの医学関連の学会や研究会に所属し、各々の職域だけではなく幅広い知識を吸収し、良き療法士の育成に努めています。
現在、整形外科（運動器）、脳卒中、小児、呼吸器、心臓疾患、がんなどの疾患の専門的なスタッフが常勤し、治療に当たっております。

臨床工学室

臨床工学室は、業務の基本方針として、医療機器の保守管理を一元的に行い医療機器の円滑な運用と安全性の確保に努めております。また、多職種と連携を図り、臨床工学技士として質の高い医療を目指しております。
地域医療の貢献として、高度かつ専門的な能力を備えた臨床工学技士（3学会合同呼吸療法認定士・認定血液浄化臨床工学技士等）を病院群に配置するための人材育成に取り組んでおります。

血液浄化装置

人工呼吸器

栄養管理係

■管理栄養士　教育プログラム

社会人として及び病院管理栄養士として必要なスキルが身に着けられるよう、5病院合同で研修を実施しています。

充実の医療機器

正確な診断と高度な医療の提供に、欠かすことができない医療機器を充実させました。

■da Vinci（手術用ロボット支援システム）

患者さんの負担が少ない低侵襲の術式において、高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像の下、鮮明な画像を見ながら、人の手首よりはるかに大きく曲がって回転する手首を備えた器具（鉗子）を使用し、精緻な手術を行うことが可能です。

■O-arm（術中イメージングシステム）

O-arm（オーアーム）とは、アルファベットの『O』を模した手術中の画像システムです。X線の透視画像とCTの三次元（3D）画像で、確認することが難しかった箇所まで手術中に映し出すことが可能となります。

■高精度放射線治療機器

放射線治療は、身体への負担が少なく、高齢者の方や合併症などにより手術ができない方にも有効な場合が多く、がん治療において非常に有力な治療のひとつです。

■PET−CT装置（X線CT組合せ型陽電子断層撮影装置）

一度に全身を検査できるがん診療の画像診断装置です。従来見つけにくかった小さな病変も発見し易く、治療前のがんの広がりを正確に診断するとともに、治療後の評価、再発の発見にも威力を発揮します。

■SPECT装置（回転式核医学診断用検出装置）

放射線を放出する特殊な薬剤を用いて、脳血管障害、がん、心臓病、がんの骨転移の診断などを行う装置です。乳がん診療においては、診断から治療までを含めた先進医療を提供します。

■IVR-CT装置（X線CT組合せ型血管連続撮影装置）

血管撮影とCTが合体した先端装置で、ピンポイントに抗がん剤等の投与ができ、生命にかかわる出血などの救急医療においても迅速かつ安全に治療が行えます。

■血管連続撮影装置（心臓用）

当院の心臓用血管撮影装置は、最新のフラットパネル搭載バイプレーン装置（2つのX線管が装備されている方式）であり、低放射線被ばく線量、かつ、高画質な技術により効率的な検査を提供します。また、患者様の寝台には低反発素材のテンピュールマットを使用しており、検査中の快適性も担保しております。

■ESWL（結石破砕装置）

体外からの衝撃波で腎臓や尿管の結石を砕石する装置です。砕石された結石は尿とともに排出されます。短期入院で、早期の社会復帰が可能です。

■MRI装置（核磁気共鳴断層診断装置）

頭部、脊髄、関節部位の他、肝臓や腎臓などの診断に威力を発揮します。放射線を使用することなく、脳内血管や神経の走行、がん診療に有効とされる全身の画像など一歩進んだ画像情報を得ることができます。

■マルチCT装置（多列式全身用X線コンピューター断層診断装置）

従来の高速CTから超高速CTへと進化し、より高精度な画像診断を得ることができます。従来のCT装置より被ばく量の低減を図ることが可能です。

■乳房生検装置

乳がんの診療においては、精度の高い診断技術が求められます。乳房生検装置はX線画像上で確認し、病変部を採取する装置で、患者さんの身体的な負担が少なく、がんの早期診断及び良質な治療を提供する上で有用な装置です。

Nagoya City University West Medical Center

アメニティに配慮した設備

「明るく快適に過ごすことができる病院」をテーマに、採光のよい病室を整備しました。

特別個室A

■特別個室S・A

ゆとりある空間と専用の浴室・トイレ・ミニキッチン・応接スペースなど充実の設備を揃えました。病院の最上階に位置し、名古屋が一望できます。テレビ・電話（市内通話）は全室無料でご利用になれます。

■特別個室B

産科病棟にあり、応接セットを各部屋に完備しています。ゆとりある空間でご家族とともに過ごすことができます。

■一般個室A・B

各室にユニットシャワーを整備し、プライバシーが守られた静かな環境で過ごしていただけます。

■一般病室

すべてのベッドが窓際にあり、個室的な間取りにしました。各病室に洗面台を設置しました。

■デイルーム

各フロア南側にあり、日当たりがよい室内は、お食事やご歓談にご利用いただけます。

■売店

入院に必要なものをお買い求めいただけます。おいしいお弁当や焼きたてのパンも揃えています。

■喫茶

挽きたてのコーヒーや各種ソフトドリンク、軽食を揃えています。お持ち帰りもできます。

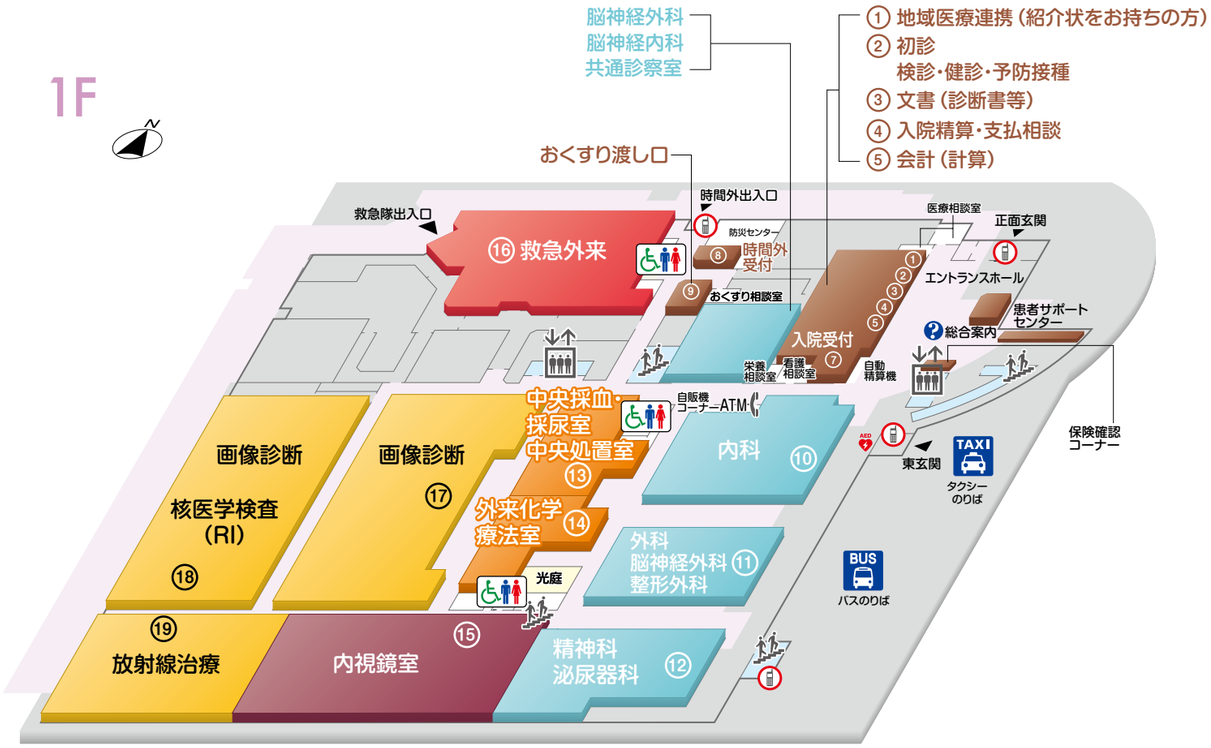
■ひだまりの丘（屋上庭園）

患者さんの癒しの空間と、地球環境配慮のための屋上緑化として整備しました。建物南側に位置し、噴水や小川のせせらぎを聞きながら歩いたり、ベンチに腰かけたりできます。どなたでもご利用でき、リハビリテーションコースも整備しています。

Nagoya City University West Medical Center

西部医療センターフロア案内

1F



2F

トイレ　多機能トイレ　階段　エレベーター　授乳室　ランドリー室　携帯電話使用可能　公衆電話

3F

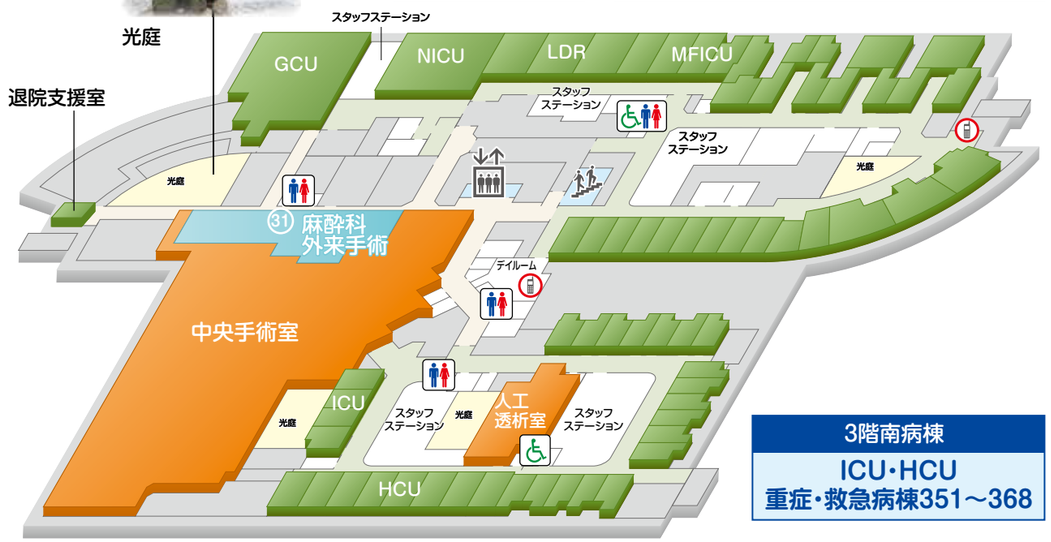
周産期医療センター

新生児診療部門

3階西病棟
NICU・GCU

母体・胎児診療部門

3階東病棟
LDR・MFICU・産科病棟 301～324



3階南病棟
ICU・HCU
重症・救急病棟351～368

4F

生殖医療センター

小児医療センター

4 階東病棟
401～432

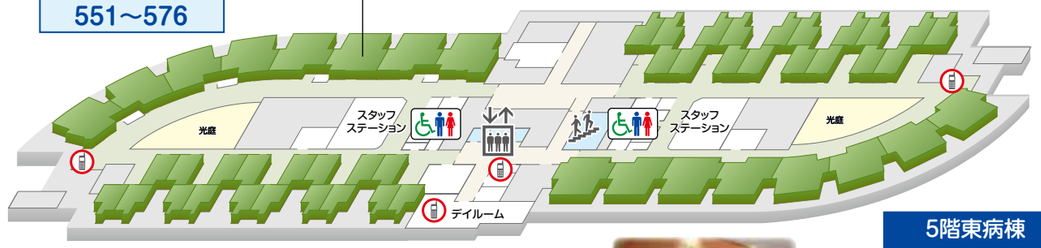
ひだまりの丘

5～8階

5F

女性病棟

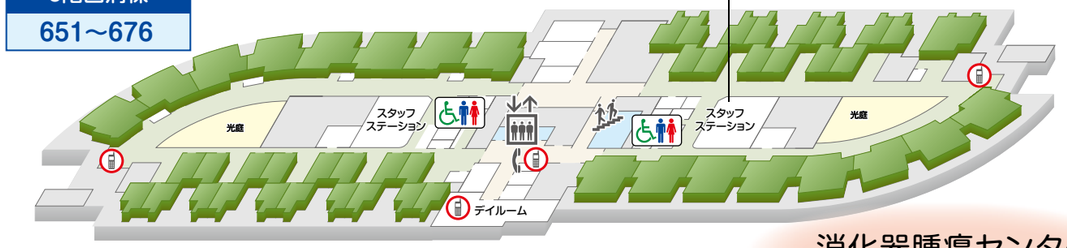
5階西病棟
551～576



5階東病棟
501～526

6F

6階西病棟
651～676

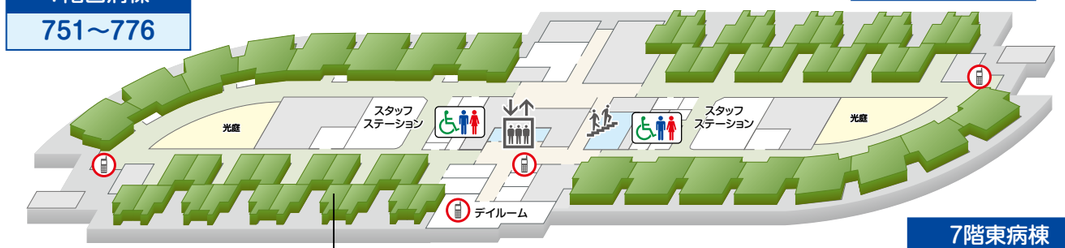


消化器腫瘍センター

6階東病棟
601～623

7F

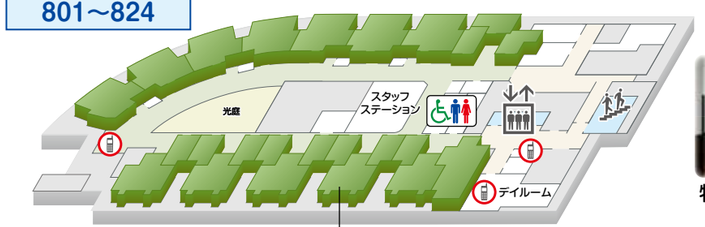
7階西病棟
751～776



7階東病棟
701～726

8F

8階病棟
801～824



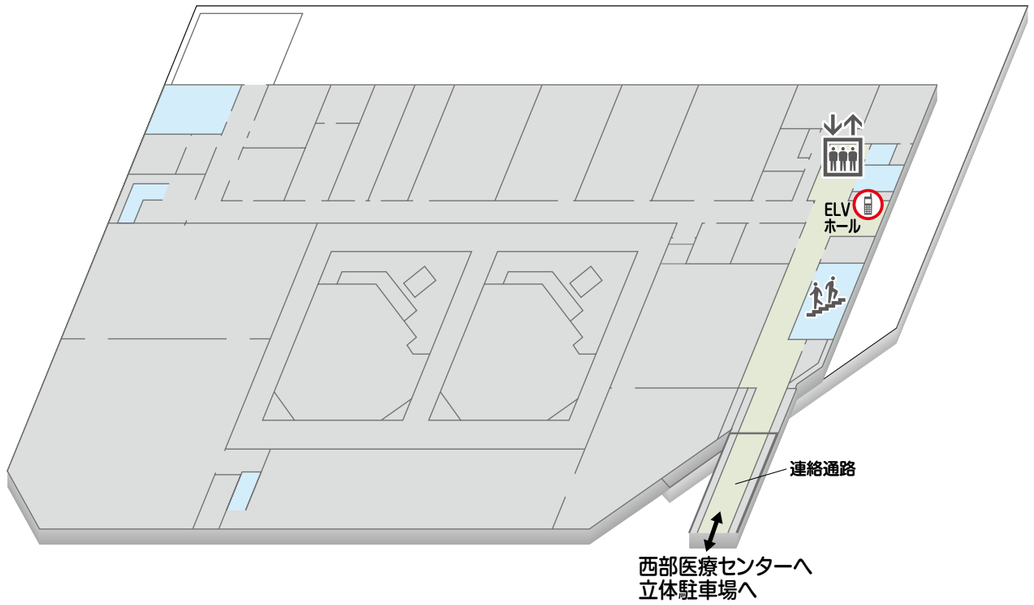
特別個室A

Nagoya City University West Medical Center

陽子線治療センター（別館）フロア案内

1F

2F



Nagoya City University West Medical Center

交通のご案内

交通案内

■公共交通機関でご来院の方

地下鉄 栄駅	市バス 2番のり場 栄⑪	【如意車庫前行き】【平田住宅行き】※	約25分
地下鉄 名古屋駅	市バス 7番のり場 名駅⑮	【西部医療センター行き】	約30分
地下鉄 黒川駅	市バス 5番のり場 幹栄❶	【西部医療センター行き】	約10分
	市バス 5番のり場 名駅⑮	【西部医療センター行き】	約10分
	市バス 5番のり場 北巡回	【右回り黒川行き】	約10分
市バス 如意住宅	市バス 幹栄⑪	【西部医療センター行き】	約35分
市バス 名塚	市バス 1番のり場 栄⑪	【栄行き】※	約10分

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター

※栄⑪：時間帯により「志賀公園前」での下車となりますのでご注意ください。